

「巨木を育む豊かな森と水源の郷をつくる会」の紹介

NPO 法人びわ湖トラスト

副理事長 岩坪五郎

昨年 10 月、びわ湖トラスト理事長の山田能裕師から電話があった。これがきっかけである。「今朝の京都新聞滋賀版によれば、“旧朽木村の山林で、胸高直径 1 メートルを超えるトチノキの巨木が伐採されており、一部山林所有者、住民、学識経験者らが滋賀県嘉田知事にその中止を請願する”という。我らがびわ湖トラストとしても、看過できない問題で、現場を見に行こうと思う。」との電話の内容。わたしは林学の教師をしていたので同行を求められたのである。前地元出身県議の清水さんに案内されて、理事長、小川さん、高木さんと高島市朽木能家の伐採跡に行った。マスコミの多くは、樹木の伐採を虐殺のように写真報道するが、それは飼育牛の屠殺を虐殺と宣伝するのと同じで、わたしは同意できない。林業は樹木を育み伐採して収入を得る。私有林の樹木なら、その所有者の同意を得ているなら、問題はないはずだ。伐採の場合、所轄自治体に届け出が必要だ、などと考えながら現場に向かった。

ここは花崗岩由来の土壌をもつ田上山一帯ではなく、古生層地帯の養分に富んだ土壌を誇る地域である。伐採跡地でも土砂流亡が起こることはあまりなく、翌年から林床植物が繁茂するとされている。ところが、林床に藪はなく、スキーゲレンデのようである。後ほど、地元林業家に聞いた話だが、2~3 年前よりとつぜん鹿の食害が増えはじめた。鹿の口の届く範囲の緑葉はなくなり、土壌表層の落葉層を食べ、さらに根を掘り起こして食べるという。この状態で上層木を伐採し、根が腐敗しだすとこの土壌は、斜面にスポンジを置いたように少雨の際には、ほとんど水を流出させず、逆に大雨が続くと一挙に洪水を起こすとされている。

林業の要諦は、後継樹育成のための高木の伐採である。この状態では話にならない。後継樹の生育など全く期待できない。

このトチノキ巨木伐採をなんとか中止したいと努力している人たちの中に県の職員が二人おり、彼らは大学・学部・学科も同じわたしの後輩であることがわかり、交流が深まってきた。その縁で、能家の近くの里人たちの会に出席した。ここでみなさんが口をそろえたのが先に述べて鹿の食害である。日露戦争の頃には絶滅しかけていたが、抑圧してきた狼が絶滅し、猟師も高齢化して、ここ数年爆発的に増加しているらしい。担当の高島市の人、はじめは銃で最近は罠で、かなり捕獲しており少しずつ効果が出始めていると述べた。

今回、新聞などで問題になっているトチノキ巨木の伐採について、里人の答えは簡単明瞭であった。「自分たちは金に困って売ったのではない。そんなに貴重なものなら、どうしてそのことをいってくれなかったのだ。」であった。売却価格も、市場での最終価格から逆

算した場合、かなり安価なものであったようだ。

このような事態がきっかけになって、旧朽木村の人たちが会い寄り、今日の主題である「巨木を育む豊かな森と水源の郷をつくる会」が結成された。会長は朽木西小学校の先生であった人望厚い青木先生。副会長・理事には、この地域の森林所有者が顔を並べ、事務局は滋賀県の森林関係の職員が担当している。

その会の目的、事業はおおよそ次のようである。

(目的)

会は、巨木を育む豊かな森づくりを推進することにより、次の目的を達成するものとする。

- (1) 森林の価値や機能を向上させる。
- (2) 山里の価値を高め山村地域を活性化させる。
- (3) 森林と共生する暮らしや文化を再生し、次の世代に引き継いでいく。

(事業)

会は、その目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) トチノキ巨木の買い付けおよび伐採を防止する事業
- (2) 長寿命で質の高い美しい森を残し、増やしていく事業
- (3) 里の獣害を軽減する森づくりおよび野生動物の保護管理を行う事業
- (4) 豊かな森や巨木を地域の誇りにし、地域内外に価値を普及する事業
- (5) 森の恵みを活用する事業
- (6) 森の遊びを開拓する事業
- (7) その他会の目的を達成するために必要な事業

私見を述べると、巨木の伐採を防止することを喫緊の事業としているけれども、大切なのは巨木を育む環境の育成である。滋賀県の森林の9割は私有林である。多くの森林所有者が先に述べた、「それならそうと連絡すべきではないか」との意見をもっておられる可能性がある。この人たちが、このような地元の協議会に集うことによって、多くの情報が得られ滋賀県の森林が豊になるのではないだろうか。

この山郷の会の連絡先は、

【0740-38-3212まで、FAXしていただきますようお願いいたします】としている。

さらに、会員募集のチラシを添付する。(最終頁)

びわ湖トラストでは、治山治水の山に当たる事業として、この山里協議会の運営にできるだけの支援を行おうとしている。

巨木を育む豊かな森と水源の郷をつくる会 会員募集についてのお知らせ



滋賀県でも、特に針畑川流域や北川の源流域は、森林とともに暮らす森林文化が根付いていることから、巨木や巨木林が多く残されています。

このたび、巨木や巨木林が残されている地域間で連携しつつ、巨木や巨木林の保全など、森林の価値や機能を向上させることによって、山里の価値を高め、山村地域を活性化し、次の世代に引き継いでいくための会を10月31日に設立させていただきました。

会費は無料で、会議に出席する義務などはございませんので、会の目的に賛同していただけます場合は、是非とも会員として登録していただきますようお願いいたします。

会員として登録いただければ、会の取り組み・森林や山村に関する情報など、定期的にお知らせいたします。

今後予定しています会の取り組み

- ①500年の森づくり
- ②獣害に強い森づくり
- ③地域の誇りづくり
- ④森の恵みづくり
- ⑤森の遊びづくり

①～⑤までの取り組みにあたって、2ヶ月に1回くらい会議を開催いたします。

会員の方で、会議への出席を希望していただける場合は、後ほど開催案内もさせていただきます。

連絡先

0740-38-3212まで、FAXしていただきますようお願いいたします